

# 平成 28 年度 ふれ愛の館しおん 相談部門事業報告

## 1 総括

平成 28 年度は、昨年度から継続して地域包括ケアシステムの構築を念頭に、医療と介護の連携や地域から気軽に相談が届く体制づくりを目指してきた。

具体的には地域包括支援センターを中心に、行政、医師会、介護保険事業所連絡会、地域活動協議会、民生委員協議会等とのネットワーク構築のための取り組みを行い、利用者が可能な限り自宅で自立した暮らしが営めるような支援に努めた。CSW 事業については、本人に次いで専門機関からの相談が多くなっており、地域だけでなく各団体への周知が進んでいると考えられる。相談の多くが 40 歳～64 歳となっており成人以上の世代であるが、子育て等や児童に関する相談はほとんどない状態となっている。

地域との関わりにおいては、包括支援センターおよび CSW の業務と連動しつつも、職員全員が法人としての地域貢献を意識するように心がけ、楽しみながら行事に参加するよう取り組んだ。

## 2 目標の振り返り

### (1) 地域包括ケアの拠点としての機能強化と拡大

#### I 総合相談支援

- ・個別支援の地域ケア会議 18 回
- ・事例検証のための地域ケア会議 1 回
- ・課題抽出型の地域ケア会議 2 回

#### II 医療と介護の連携

- ・住吉区内の医療機関と介護事業所をつなぐ取り組み（住吉どらやきの会）への参画
- ・住吉どらやきの会ワールドカフェ開催
- ・認知症等高齢者支援地域連携事業（るるるネット）への参画
- ・るるるネットフェアおよび専門職向け講演会の開催

#### III 地域活動協議会との連携（包括としての事業を除く）

- ・包括、CSW 職員が苅田北地域、苅田地域の協議会に毎月参加
- ・長居地域においては民生委員協議会に参加
- ・民生委員協議会にて関係機関が共働した事例報告を行った。
- ・盆踊り（櫓作り、夜店の出店など）包括 5 名 居宅 2 名 CSW 1 名
- ・苅田小学校オータムフェスティバル 包括 2 名 CSW 1 名
- ・苅田および苅田北敬老会（楽器運搬、参加者の送迎）包括 4 名 CSW 1 名
- ・苅田および苅田北防災イベント 包括 2 名 CSW 1 名
- ・年末の夜警（苅田、苅田北）包括 3 名 CSW 1 名

### (2) 人事評価制度の浸透と理解

管理職と一般職員が月に 1 回の面接を行い、個人目標の達成状況の確認と振り返りを行った。

統括主任による新人ケアマネジャーに対するスーパービジョンを利用者との面接記録をもとに行った。

(3) 特別養護老人ホームに対する委員活動の遂行

I 教育機関との連携

- ・教育センター附属高校の生徒を対象に認知症サポーター養成講座を開催（4回）
- ・社会福祉士（1名）、看護師（6名）の実習受け入れ
- ・地元に住む福祉系大学の学生との協働（食事会への参加）

II 理念の再構築

- ・包括会議においてBSC会議の進捗状況を報告
- ・地域貢献として積極的に行事に参加を促した

(4) 業績赤字の解消

I 居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）の認知症デイサービスに対する集中減算を回避するために、包括支援センターと連携し事例検討会を開催 3回

(5) 認知症高齢者の生活維持のための取組み

長居公園での認知症の人と「歩く会」の開催 毎月

認知症サポーター養成講座開催 5回

住吉区るるるネットフェア 1回

地域の食事会で認知症の啓発活動 複数回

地域で認知症勉強会を開催 1回

### 3、今後の課題

事業所内部においては各事業所間の連携ができていないことから、地域包括が対応する地域からの介護等の相談について自前のケアマネジャーおよびサービス事業所に円滑に繋ぐことが難しく、また特定事業所集中減算との兼ね合いもあって業績としてはマイナス傾向であった。さらに職員の退職による業務の停滞もあって職場環境的にも健全な状態を保ちにくい状況となってしまった。

29年度より、3事業が相談事業部門として再編されることで、横の連携をスムーズに行うことを目指し、上記のような働きにくさを解消するため管理職間の情報共有や、迅速な連絡および報告体制を構築する。そのうえで今年度以降、来る全世帯型、全対象型地域包括支援センターの開設を目指した事業展開を行う所存である。